

## 第 2 回水道料金等審議会 会議録

- 会議の名称：第 2 回甲府市水道料金等審議会
- 開催日時：平成 29 年 7 月 10 日（月）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
- 開催場所：甲府市上下水道局 3 階大会議室
- 出席委員：込山芳行委員、風間ふたば委員、塩谷知則委員、小林正直委員、落合圭子委員、小林登委員、金澤悟委員、清水健治委員、矢島静枝委員、牛奥久代委員、越石寛委員、波木井淳一委員、河野昭三委員、市中優也委員
- 欠席委員：藤澤恵子委員、萩原雄二委員
- 傍聴者数：1 名
- 次第
  - 1 開会
  - 2 報告事項
  - 3 議事
    - (1) お客様満足度調査について
    - (2) 水道料金・下水道使用料のしくみについて
    - (3) 甲府市の水道料金と下水道使用料について  
～他都市との比較～
    - (4) 算定期間について
    - (5) その他
  - 4 事務連絡
  - 5 閉会
- 審議内容

【込山会長】次第の 3 議事に移ります。(1) お客様満足度調査について、(2) 水道料金・下水道使用料のしくみについて、(3) 甲府市の水道料金と下水道使用料について(他都市との比較)は、プロジェクターを使った説明ということで、一括して事務局より説明をお願いしたいと思います。

《事務局説明》

【会長】事務局からの説明が終わりました。何かご質問・ご意見等は、ございませんか。

【委員】4か所疑問に思ったことがありましたのでお聞きします。1点目に、他都市との比較の中で、甲府市は周辺の自治体の水道料金・下水道使用料と比較して高いと思います。全国的には低いと思うのですが、県内どこも同じような環境かと思うのですが、甲府市は他の市町村と何が違うのですか。2点目に、お客様満足度調査で、1,500名に配布して、600名から回収ということですが、その区域で1,500名と数字が妥当かどうか。もっと必要なのではないかと。3点目も同じく、お客様満足度調査で、5ページの下水道の設問3-6の(2)の今後重点的に取り組むべき項目で「家屋の浸水や道路の陥没等の被害が減少」が2.6ポイント増えているのですが、それだけ実際に補修とかが増えたからではないかと。そうではなくて、たまたま震災とかそういう影響なのか知りたい。4点目も、お客様満足度調査について、P8の下水道使用料についての満足度の話の補足説明の中で、「他都市でも同様の結果」と話がありましたが、その“他都市”がどのあたりを指しているのか教えてください。以上になります。

【会長】4点の質問について事務局お答えいただけますか。

【事務局】1点目、県内周辺市町村との料金の違いで、料金が異なる要因についてですが、まず甲府市については事業開始時期が大正の初めになりますので、整備し始めた時期が異なります。山梨県は全都道府県で安い方から2番目で、県として全体的に安くなっています。その中で甲府市については、高度経済成長期に急激に人口が増加し、水が不足する状況にありました。それを解消するために、昭和水源を開発したり、荒川ダムを作り、水利権を確保したり、その時は莫大な経費を先行投資していました。当時としては、高金利の借入金で賄っていたので、かかる経費が高い時代がありました。その当時については、県内でも高い料金水準にあったのですが、その後、高金利の借入金については、低金利のものに借り換え、維持管理時代になりましたので適切な維持管理・計画的な施設の更新をする中で、料金の値上げをすることなく、経費的には、かなり抑えてきているところです。周辺市町村の方は、高度成長期時代から国の補助金を活用して、簡易水道の段階から始めていますので当初投資の違いや井戸水の活用など水源が違うという状況があります。県内の事業体で施設の耐震化・更新等を進めていることもあり、昨年から今年にかけて約半分の事業体で料金改定が行われています。これ

から数年経つと今の状況は変わってくるのかもしれませんが。2点目について、満足度調査の対象数・回収数。この数について、甲府市でも満足度調査を行っているのですが、概ね甲府の規模で600～700くらいの回収数が集まると、5%以内の誤差の範囲で収まるということになりますので、一定の信頼は、この数でも確保ができると考えております。

【委員】ありがとうございます。

【事務局】3点目の陥没等について、過去と比較して、修理・修繕等顕著な増減がありませんので、マスコミなどで大きな陥没が取り上げられたり、震災の報道がされることによってお客様の関心がこちらに集まっているのではないかと考えております。

【事務局】最後に他都市と比較してですが、満足度調査を全国で実施しているところの先進的な都市を参考にしています。その調査概要・報告書等を甲府市で満足度調査を実施するにあたって参考にさせていただき、見比べた時に料金については、同様に高いと感じられているところが多く見受けられました。

【委員】ありがとうございました。

【会長】1,500人のうちの回答した600人については甲府市の水道行政について、理解のある層なのか、それとも不満分子がこういう数字で出てきているのか知りたい。

【事務局】今回が3回目の調査で、無作為抽出で行っています。おそらく同じ人に質問用紙は届いていないと思いますので、結果に大きな違いがないことから、使用していただいている方々がこのような考え方を基礎的に持っているのではないかと考えています。

【会長】成人男女全体のアンケートだから、1,500で600は妥当かな。アンケートなので絶対値は出てこない。他にありますか。

【委員】周りの人と話をすると、周りの市町村の料金と比較されていて、甲府市を出て行く人、住む人の1つのきっかけになるというところがある。先ほどの資料は、非常にわかりやすく、全国的な位置とかはよくわかったのですが、できれば甲府市の地図があって、周りの市町村があって、そこと比較できるような資料があると、わかりやすいかなと思います。私たちも今後参考にしていく中で、先ほど説明した内容で、甲府市はこういう事情があるから他の市と比べて、高いとか安いとか判断していきたいと思っておりますので、そのような資料があれば

ご提示いただきたい。二つ目で、まちづくりの観点でコンパクトシティというのがあります。私は、仕事柄、中心市街地活性化に取り組んでおりまして全国の状況を見る中で、既存の中心街の施設を有効に活用し、まちを広げると維持管理費がかかってしまうという発想を勉強しながら、中心街の活性化に取り組んでいます。実は、私は甲府市の南部に住んでいるのですが、今非常に人口が増えていて、住宅も非常に増えているエリアです。市街化調整区域なのですが、どんどん家が建って、増えています。実質、住宅が建てば水道の整備をしなければならないという中で、人が増えて、子ども達がたくさん増えていいと思うのですが、その一方で、当然何年かすると高齢者が増えるという循環をしていくのだなと思います。まちづくりの大きな観点で見ると、水道料金を決める審議会を開いて様々なことを決めていくのですが、土地開発の関係については建設部の都市計画の部署があり、いろんな部署と情報交換また協議する中で、甲府市の今後の人口推移に対してどのように考えていて、市の水道の管理体系の将来的なビジョンとして、なんらかの方針があるのかどうか参考に伺えればとそんな風に思います。以上、2点、お願いします。

【会長】市のまちづくりとリンクしている点で水道行政が関わっているかというところでなにか。

【事務局】今の話は、非常にレベルの高い話になると思うのですが、まちづくりに関して例えば、リニア新駅、あの周辺をどうするか。そういう大きい開発に関しては、庁内連絡会議というのがありまして、私たちも参加をして、水道の場合には、水を使いたいということであれば、それは水を送るような算段をしいていくのですが、下水道の場合には、認可区域というのがありまして、使えない場所があります。そういったことを併せてまちづくりについての意見を求められることの中で、上下水道局としてもそういった会議に出席をしております。まちづくりの方向性で、考え方について、基本的には建設部の方で、案を作って協議をしていくという形を取っております。いずれにしても上下水道局としても、そういったものに参加する中で、お話をさせてもらって進めております。

【会長】よろしいですか。

【委員】最初の質問のものは、作ってもらえるということによろしいでしょうか。要望ということで。

【事務局】わかりました。その資料は、用意させていただきます。

【会長】 3ページのグラフでは、足りないということですか。ここに周辺市町村もあります。

【委員】 それをできれば地図に。

【事務局】 わかりました。

【委員】 難しい地図でなくていいので。

【事務局】 そのような地図を用いた表を作成させていただきます。

【会長】 地図の中に数値をいれて、一目瞭然でわかりやすいものということですね。水道料金がなくて転出することもないとは限らないと。

【委員】 甲府市の水道料金の30年間の推移を教えてください。

【会長】 最近の料金改定は、何年前でしょうか。

【事務局】 甲府市の水道料金の改定の変遷ですが、現行のものについては平成21年4月1日に変わっています。甲府市と中道が合併した後ですので、旧甲府市について5.77%値下げをしております。その前が平成14年4月1日で1.82%値下げをしております。その前が平成5年4月1日に8.83%の値上げをしております。ですので、料金自体は、平成5年の料金改定以降、値上げをしていない状況です。

【委員】 14年と21年の値下げをした主な理由は。

【事務局】 一番大きい理由としては、荒川ダムと平瀬浄水場を築造した時に8%を超える金利の企業債の借入でほとんどの財源を確保していたことから、支払の利息が水道料金に占める割合が多かったということがあります。これについては、国へ要望する中で、低金利のものに借り換えさせていただきました。そして、大きな投資が終わり、維持管理の時代に移る中で、施設の更新などに掛かる経費が主になってくるので料金を算定した時に、値下げが可能であると判断しました。ただし、平成21年は、上下水道が組織的に一緒になって、下水道使用料は値上げをしており、トータル的には、一般家庭の料金が値上げにならないような料金体系を設定しています。

【委員】 分かりました。

【委員】 水道料金について、全国や県内の中で比較する資料で、口径13mm・10<sup>m</sup>使用時を基準にしているのですが、水道料金は逡増制で段階的に料金が高くなるということで、仮に20<sup>m</sup>使用したり、60<sup>m</sup>使用した場合、甲府は同じ位の位置になるのでしょうか。もう1点、甲府市の料金体系について、基本料金に

については、下水道使用料が単一料金となっていますが、下水道が口径別ではなく、単一になっている理由を教えてください。

【事務局】まず1点目、20 m<sup>3</sup>で換算しましても、全国の平均を下回っている状況にあります。水道は、管の太さによって13 mmから大きいところで150 mm・200 mmのメーターを取り付けて、これに応じる形で料金も分けられています。下水は、口径別のメーターが関係しておらず基本料金は一律ですが、大量に使用した場合、これに応じて単価が高くなります。量が少ない一般家庭については安く設定し、事業所や工場など大量に使用するところの単価を高く設定しています。

【委員】わかりました。一般家庭で通常使用する範囲ならだいたいどの使用量になってもこのようなグラフの位置になると理解していいということですね。

【事務局】40 m<sup>3</sup>、60 m<sup>3</sup>は、1ヶ月の量としては、家庭用から事業用に変わってきてしまうのと全国で一律の統計を取っていないところがありますので、一般家庭としては1ヶ月10 m<sup>3</sup>・20 m<sup>3</sup>までの範囲で考えられると思います。

【委員】ありがとうございました。

【会長】一般家庭のイメージは、どのくらいになるのか。

【事務局】世帯の構成がだいぶ変わってきておまして、高度経済成長期ですと、お父さんお母さんお子さん2人が標準的な感じでしたが、単身の世帯が急激に増えてきております。家族4人でも月に20 m<sup>3</sup>くらいで、平均的なところを見ると2ヶ月で30 m<sup>3</sup>ですので、1ヶ月15 m<sup>3</sup>くらいが多いと思います。

【会長】わかりました。

【委員】満足度調査のところの設問3-11の節水をしていますかの質問で、平成25年に69%とあったものが、平成28年に55%と14ポイント下がっています。この結果については、どのようにお考えですか。私の思うに、アンケートの時期も関係してくると思うのですが、調査時期は毎回決まっているのでしょうか。何月とか、時期とか気候の状況が影響するのかなど。雨が少なかったりとかそういったことが影響するのかなど。あと、節水の意識は学校の教育の現場へ持ち込んでいいと思います。学校へチラシの配布とかはされているのでしょうか。それと甲府の水について、どちらで販売をしているのでしょうか。場合によっては、非常に甲府のアピールになると思いますのでもっと大々的にやられてはいいかと思いますが、例えば駅で売っていたら、私はお土産でこれを買います。非常に価値のあるものだと思います。

【事務局】満足度調査の時期は、6月1日現在で給水区域内にお住まいの方を対象に今回は、6月23日から7月14日の間で実施をしており、以前もほぼ同様に行っています。学校現場ですが、小学校4年生が社会科で水道や下水道について勉強する年代となっていますので、この辺りの小学生のほぼ全員と断言しているのですが、平瀬浄水場に施設見学に来ていただいています。その時には、子ども向けの水道下水道のパンフレットを説明しながら、配付しています。小学校のうちから興味を持っていただければと力を入れているところがございます。また、節水意識の低下については、多くの方が意識をされているかと思うのですが、節水機器がかなり普及してきて、高度化も進んでいます。自分で普段節水を意識することよりも節水型の洗濯機に替えるというような意識が高いのかと思います。「甲府の水」については、平瀬浄水場の水から塩素を抜いたものを詰めております。こちらは全く同じおいしい水が各家庭の蛇口から出ているという甲府の水のおいしさをPRするために作っております。また、5年間保存できますので、災害のときに、初期の3日間とか1週間断水する場合がありますので、家庭での水の備蓄等併せて呼びかけるようなPRも行っています。備蓄水として使いたいという要望がありましたので、上下水道局の1階のサービスセンターにて箱単位で購入できるようにしております。実際に各家庭、自治会、企業において備蓄用に購入されております。

【会長】懇話会でも話が出ましたが、まだ市販はしていないということですね。

【事務局】現状は、全国レベルで見ますと大きい都市でも売れば売るほど赤字になるということがありますので、甲府市としては、販売ではなく、PR用として配布をさせていただくスタンスを取っております。ただ、スポット的に置いてみることも今後検討させていただきます。

【会長】他に。

【委員】3点あります。1点目は、水道は本当に大切というのは身にしみてわかっておりますが、今日テレビで九州の豪雨を見まして、出てくるのはトイレに行けないとか風呂に入れえないとか水道の話。だから、水道というのは本当に大事というのは改めて思っています。4月に異動して来て、いろんな企業を回ると、コスト削減もそうですし、一生懸命頑張っていく中で、やっぱり事業を継続するBCPを実行するために、エネルギー・水道関係を途切れなく送らないといけない。確認になるのですが、お客様満足度調査で地震災害・耐震化でかなり高いレベル

に來ているようですが、これは熊本地震のあとですか。今の災害を考えたとき、耐震化・備蓄等の現状はどうかというのが1点目。あと、料金説明は非常にわかりやすかったのですが、その中で2枚目の水道も下水道も地方公営企業という中で、同じところと違うところですけども、同じところで水道ですと安全安心な水を安定して送るということが必要かと思うのですが、これはガスも電気も同じでして、安全で安定しているのは同じなのかなという風に思いました。それから違うところは、利益という言葉がふさわしくないのかもしれませんが、料金を上げて利益を出す利益というそういう意味ではないのですが、やはり安全とか安定供給するため・耐震化を進めるため、そういった原資を生み出すという観点からすると、ここは一般企業と同じではないかなと思ったところがございます。それから水道料金・下水道使用料のしくみの5ページで今の料金で足りるのか足りないのかというところでいろいろなことを合算していく中で、足りなければ料金の改定も出てくるという話もあったのですが、料金もあるのかもしれませんが、やっぱりどういうところのコストを削減していくかを考えていくということで、例えば、その次のページに減価償却費というところがありますが、ここは甲府市の水道を考えますと例えば20年ほど前に大きな規制緩和がありまして、ガスと水道の共同で行ったのですが、埋設の深さが大正時代から1.2mあったものを合理的な埋設深さにできると。これは、非常にコスト削減に大きな効果が出ていて、環境にもよくCO2削減にも繋がっている。工事が減りますので道路交通にも大きな効果があり非常にコストに効いてくるものでした。それから道路使用許可として、警察の許可が必要なのですが、全国一律に決められていたところがありました。これを緩和するだけで、工事のやり方が工夫でき、コスト削減できたりだとか、そういったものがこういった減価償却費から消えていくのかなと。それから下にある検針費、検針で困るのは、なかなかできないところ。例えばオートロックのところは何回も行って、調整したりとかそういったところもあります。そういったところをどうするか、そういった中でメーターをIT化、IOTという言葉が出ていますが、そういったものを駆使して、今非常にいい通信関係ができていまして、遠隔で受信できるとか、今度ガスと水道で一緒にできるとかそういった実証実験を行っているところがありまして、すぐできないかもしれませんが、先々を視野に入れながら、今から原資を作っていく中でそういったものに投資していくというのもどうかかなと思いましたので、そういったところにつ



いてご考慮いただければと思います。

【会長】今、3点に分けて話がありましたが反映できるようであれば事務局での対応を考えてください。何かありますか。

【事務局】耐震性について、浄水では、水を作るところと蓄えるところがありまして、それから配る管路の3つに分けることができるのですが、浄水場の耐震化については、ほぼ確認がとれています。配水池については、まだ耐震性が不十分なところがありまして、これから耐震性を強化し、100%にしていけます。管路の耐震性が現在13%程度ですが、被災後4週間で水が出るように復旧する計画を充たすには、耐震化率を50%に上げていかなければならず、これを目指して進めていきます。下水道は、集めた水を浄化センターに持っていく管路と処理をする浄化センター、この二つの構造になっておりまして、まず管路につきましては、水が流せる状況を確保していく必要があります、これから確保していきます。浄化センターについては、これから耐震診断を実施して、耐震性を確保して、対応を行っていきます。

【会長】まだまだ道半ばというところがあるようですね。他に説明はありますか。

【事務局】利益を出すことが目的ではないというところですが、もちろん公益的な事業をされているところについては、公共性を持ってやっているところは当然同じですので、一般的な企業という概念で示しております。あと、コストの縮減努力ということですが、様々なコスト削減や効率的な事業運営が大前提と考えていますので、そういうことをしたうえで、全体としての料金の水準がどうなのかを検討しており、その努力をしないまま、不足する料金を計算するということは考えておりません。確かに<sup>せんそうまいせつ</sup>浅層埋設の話では、この間かなりコストが削減されたのが現実で、間接的にはそのことが甲府市の水道料金・下水道使用料が高くなならない、または下げることでできた1つの要因と考えられますので効率化、コスト縮減に関する新しい手法がまた、いろいろ出てくると思いますのでそういうことには中長期的な視点をもって取り組みが必要と考えております。

【委員】最後ですが、お客様満足度調査報告書の後ろの68・69ページの上のあたりでクロス集計がまとまっていて、興味深く読ませていただきました。集合住宅と1戸建て住宅で違うとかそれから市町村によっても、甲府市・甲斐市のグループと昭和町・中央市のグループに分かれるというのは、とてもおもしろく読ませていただいたのですが、この69ページの上を書いてある満足度についてで

すが、甲府市と甲斐市が6割満足とっているのに対して、昭和町と中央市が4割程度の満足となっています。それとあとの記述で“にごり”についてもこれに近い状況が見られるというのは、このあたりでは濁りが出るということなのでしょう。そうであれば、その原因はなんなのでしょう。

【事務局】水質に対する評価が若干違うということなのですが、実際に日々配水の管理をしている者から申し上げれば、特に昭和とか中央市に限って、にごりが出るということが、甲斐市と比較して頻繁にあるという実態はございません。ただ、水源が甲斐市旧敷島町になると平瀬からの水源ですが、昭和町・中央市になりますと地下水になりますので、停電が発生した時に若干水の送水状況が変わりますので、その辺でにごりが出たりという事例は、過去にはございます。そのあたりの違いだけだと思います。

【会長】まだ他にご質問はございますか。それではもう1つの議題の算定期間についてお願いします。

#### 《算定期間》

【会長】事務局から算定期間について、3年とありましたが、いろいろ諸条件を考えたうえでの判断かと思いますが、よろしいですか。妥当でいいところだと思います。よろしいですか。

#### 《各委員異議なし》

【会長】それでは、算定期間については、3年ということにします。なければ、議事の（5）その他で、ご意見等ありますか。

【委員】前回の会議録で、3ページの下から4ページの上にかけてのところの私の発言のところで、“かなり時間がかかります”と言っているのですが、そうでない場合もありますので、ここを“時間がかかる場合があります”と変更をお願いします。

【会長】事務局、よろしいですか。

【事務局】わかりました。

【会長】他に。

【委員】周辺自治体との水道料金の比較の話で、色々な方とプライベートで話をする中で、理由はわかりませんが、小さい子どものお母さんは皆一律で高いと言います。実際資料をみると周辺と比べると確かに高いかもしれませんが、全国的には高くないと。ただ、実際に使っているお母さんたちの認識は高いとされている。そうすると使わないという方向にいつてしまうのではないか。そのあたりでもっとPRとか、小学生には平瀬浄水場に来たときにPRをしているそうですが、もう一工夫した方が料金が低いということに関して同意が得られやすいのではないかと思います。

【会長】そう思っている人もいれば、意外とリーズナブルな値段と思っている人もいる。それを含めて、市民に納得して理解を得られるようにこの会がある。いつも言っていますが安全な水が蛇口から出ることへの感謝というのをもらっていいのかなと思います。もし安くするなら、洗車、植木への水やり全て水道水でしょ。水道水を植木にかけている。もっとずっとコストの安い水を供給できればいいのだけど、それは無理な話で、でも何かアイデアがないかな。本当に炊飯とか飲料、料理する水、食器洗いの水、口に直接接する水だけは、素晴らしい水を作ってもらっていいと思う。けどお風呂の水とか水洗トイレの水とか車を洗う水とかに飲み水はいらない。ここにすごい発想があればいいのですが、これからの課題というか難しいテーマですね。甲府市の水道料金及び下水道使用料が妥当な金額なんだというところを理解してもらおうような、この委員会の議論の大事なところということで、3の議事を終わらせていただきます。

以 上